

盲学校の近未来像と持続可能な教育基盤の構築

北海道札幌視覚支援学校 研究研修部

さとう のぶひろ はしや ふじの たかだ しおり
佐藤 暢洋・橋谷布児乃・高田 栞里

かくた もえ しばさき こうへい ながの ふじお
角田 萌・柴崎 公平・長野 藤夫

インクルーシブ教育システムの実現に向けた取組が進められる中において、盲学校が存在する意義は、そこで専門的な教育を受けることができることにある。在籍する幼児児童生徒の減少に伴い教職員も減っている状況において、専門的な教育をいかにして継続させるかが、盲学校における中心的な課題であろう。今回、盲学校の置かれた現状を整理するとともに、解決に向けた在り方について、先行事例及び北海道での実践を踏まえ考察する。

1 プロローグ <盲学校の近未来像、2027 年の一コマ>

(1) 生成 AI の活用

小 1 の盲児 A 君は、1 学期を終えたが教室内の歩行もままならない。私は、文科省が令和 6 年度から開発に着手し、昨年より試験的に公開している教員向け生成 AI に、本児の指導方法について尋ねてみた。すると、机上の環境を手で確認する学習から始め、教室環境、校内環境へと空間の理解を広げていく指導内容が提案された。また、参考文献として、「養護・訓練指導事例集-視覚障害教育編-文部省、7 空間の概念形成」をはじめ、いくつか紹介された。

(2) 全国盲学校教員のためのプラットフォームの構築

A 君の指導に当たり、「触察」について、基本的なことから学びたいと思った。そこで、「全日本盲学校教育研究会 HP」にアクセスし、研修ライブラリの中から、奈良県立盲学校の研修動画を視聴することにした。

(3) 地域のプラットフォームの活用

11 月に、弱視教育の知見を学習障害児の指導に生かし、医療機関からも高く評価される先駆的な実践をされた先生の講義が、北海道札幌視覚支援学校からライブ配信されると案内があった。会議と重なり視聴できないのが残念だが、北海道視覚障害教育研究会に入会するとアーカイブで視聴できるようだ。また、教科サークルの合同研修会にオンラインで参加したり、web 上でサークル員と情報交換ができたりするとのことだ。

2 はじめに

昨年 9 月にジュネーブで開かれた国際連合の障害者権利委員会において、日本政府へ出された勧告（総括所見）の外務省訳（仮訳）¹⁾ から、教育に関する一部を次に記載する。「国の教育政策、法律及び行政上の取り決めの中で、分離特別教育を終わらせることを目的として、障害のある児童が障害者を包容する教育（インクルーシブ教育）を受ける権利があることを認識すること。」これを踏まえつつ、中央教育審議会の「次期教育振興基本計画について（答申）」²⁾ において、「障害のある子供の自立と社会参加に向けて、障害者権利条約や障害者基本法等に基づき、障害のある子供と障害のない子供が可能な限り共に過ごすための条件整備と、一人一人

の教育的ニーズに応じた学びの場の整備を両輪として、インクルーシブ教育システムの実現に向けた取組を一層進める。」と示された。これらの特別支援教育の置かれた状況を背景に青木隆一氏³⁾は、視覚障害教育従事者にとって大切なこと及び全日本盲学教育研究会の果たすべき役割として「見えない・見えにくい子供たちの学び場がどこであっても、適切な視覚障害教育が提供できるのは我々であるという自負と責任をもち、その根拠となる視覚障害教育の専門性の維持・向上を常に推進していくことに他ならないと考えます。」と指摘されている。青木氏の指摘を踏まえ、専門的な教育をいかにして継続させるかが、盲学校における中心的な課題と捉え、視覚障害教育の専門性の維持・向上の方策について考察を進めたい。

3 課題解決に向けた先行事例：校内ライブラリーの構築（奈良県立盲学校）

奈良県立盲学校 小森正代先生⁴⁾は、次のとおり研修コンテンツの整備に関する奈良県立盲学校の優れた実践を報告している。「研修ライブラリー：教材ライブラリーと動画ライブラリーを作成。校内で実施した講演会・研修会の記録、テレビやラジオ番組の録画・録音から、校内教員の日頃の実践に至るまで多岐にわたる内容であり、日々の指導に直接生かせる情報やノウハウを伝える。随時、データを更新し、その充実を図るとともに、より活発な活用を目指して、定期的に目録リストを配布して新着データの周知や、試写会を催して利用の促進に努めている。」

4 北海道視覚障害教育研究会の改革

北海道視覚障害教育研究会（以下道視研）は、昭和 37 年に発足した北海道盲教育研究会に源を発し、昭和 48 年に現行のとおりに改称され全日盲研北海道支部として現在に至っている。北海道内各盲学校が持ち回りで毎年五つの部会が実施されてきた。幼児児童生徒の減少に伴う課題を踏まえ、佐古勝利前会長の下で改革が構想され、道視研事務局及び道内盲学校 4 校の研究部長等からなる「道視研在り方検討チーム」を編成し、1 年間の協議を経て令和 4 年度より改革が実行に移された。その方針を「個人研究に重点を置くこれまでの道視研の在り方を見直し、各盲学校が抱える喫緊の課題を解決するため、学校間の垣根を越えて全会員が相互に連携・共同して研究・研修を行う体制を構築し、日々の教育活動に役立つ道視研を目指す。」とし、役割と機能を次のとおり再定義した。あわせて、初年度の評価としてアンケート結果の一部を掲載する。

（1）役割と機能

ア 校内研究と一体化した 4 校合同教科サークルによる研究

- ・合同教科サークルを 16 設置。
- ・オンラインによるサークル研修を、長期休業日も活用し年間 6 回設定。

イ サークル員の日常的な情報交換

- ・各サークルにコミュニケーションツールを割り当て、サークル員がチャット機能により日常的に情報交換ができる環境を構築。

ウ 初任者・新転任者向けの研修

- ・北海道札幌視覚支援学校の初任者及び新転任者研修事業が、道視研の本機能を担った。

(2)「R4道視研教科等サークルアンケート」結果⁵⁾

ア 「1 授業改善に役立ちましたか。」

【評価基準】全く役立たない：0～非常に役に立った：5

- ・3ポイント以上の「プラス」の回答が87.5%

イ 「6 研修をとおして、自分の授業を改善していくぞ!と思うことができましたか?」

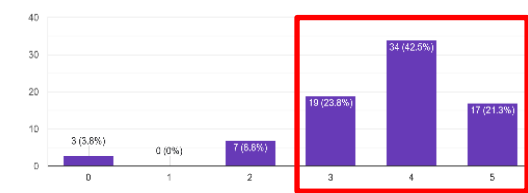
【評価基準】全くできない：0～とても思うことができました：5

- ・3ポイント以上の「プラス」の回答が86%

ウ 「7 一緒に研修した仲間に一言!」回答例。

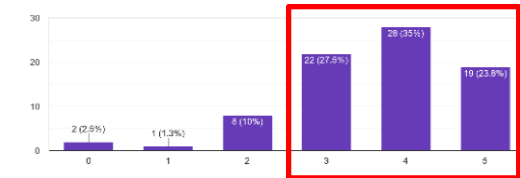
- ・ありがとうございました!いつも相談できる仲間がいて心強かったです。
- ・皆さんと授業の様子を共有できたり、オンライン授業を行うことができてとても充実した時間になりました。来年もよろしくお願いします。
- ・自分の専門教科ではない算数の指導に悩んでいたの、一緒に解決策を考えてもらい、助かりました。ありがとうございました。
- ・手探りの中一年間寄宿舎サークルを牽引してくれた札幌視覚支援の皆様ありがとうございました。よりよい活動になるよう、みんなで知恵を出していきましょう!

1. 授業改善に役立った
80件が回答



6. 研修をとおして、自分の授業を改善していくぞ!と思うことができましたか?

80件が回答



5 北海道札幌視覚支援学校の実践

令和2年度に、研究研修部にて「視覚障害等の特性に応じた指導の専門性の継承と向上に向けた取組について」と題し実施計画を作成し、本取組を推進した。目的を、「(1) 視覚障害等の特性に応じた指導の専門性の継承と向上を図る。(2) 新たに本校に着任する教職員が、本校に通う幼児児童生徒の指導に当たって理解すべき基本的事項を学ぶことにより、障害に応じた指導を工夫したり、教職員間で子供の実態や指導について円滑に共通理解を図ったりすることができるようにする。」とし、この取組の役割と機能を次のとおり定義した。

(1) 役割と機能

ア 視覚障害等の特性に応じた指導の専門性に関する基本的事項の整理

- ・本校に通う幼児児童生徒の指導に当たって身に付けるべき基本的事項を10の領域に分類し、各領域の参考文献をリストアップした。

イ 「初任者及び新転任者研修」の実施

- ・アで整理した基本的事項を踏まえ、一コマ70分間、年間20コマ程度の研修を実施。その際、本校の分掌や教員の他に、関係機関及び他校からの外部講師を招聘するとともに、校内の中堅の教員を新たに加え、講師の機会を提供することなどに留意した。
- ・初年度は外部講師を中心に北海道内各盲学校へ配信し、令和4年度は、希望を受けほぼ全ての研修を配信した。

ウ 「視覚障害教育北海道スタンダード」⁶⁾の共有

- ・本校をはじめ、道内の各盲学校で作成された指導に関する良質なマニュアルや教材などを「視覚障害教育北海道スタンダード」と位置付け、HPに掲載して共有する。

6 北海道視覚障害教育研究会（道視研）web の展開

令和5年7月に、道視研事務局と本校研究研修部が連携し、北海道視覚障害教育研究会 web（以下、道視研 web）の運用を開始した。本事業は、目的を「(1) 道内の視覚支援学校、盲学校教職員及び他の道視研会員が、希望するときに、学びたい内容を学習できる環境を PC ネットワーク上に構築し、視覚障害等の特性に応じた指導の専門性の向上と継承を図る。(2) 道内各校に新たに着任する教職員が、幼児児童生徒の指導に当たって理解すべき基本的事項を学び、障害に応じた指導を工夫したり、教職員間で子供の実態や指導について円滑に共通理解を図ったりできるようにする。(3) 道視研 web を活用し充実させる活動を通し、ICT を用いたより良い学びの在り方について考察し、本プラットフォームの改善を図るとともに、指導に生かす。」とした。道視研 web は北海道内の特別支援学校が利用しているクラウドベースのアプリケーション上に構築し、北海道内各盲学校教員と他の道視研会員がログインすることができる。その役割と機能は次のとおり定義した。あわせて、道視研 web の画像を掲載する。

(1) 役割と機能

ア 教職員向け研修プログラムの提供

- ・北海道内各盲学校の校内研修動画及び資料を掲載。
- ・道視研及び専門性向上研修会における講演等の動画及び資料を掲載。

イ 初任者及び新転任者向け研修プログラムの提供

- ・北海道札幌視覚支援学校「初任者及び新転任者研修」動画及び資料を掲載。

ウ 北海道発祥の資料・教材の共有

- ・北海道盲学校専門性テキスト⁷⁾等を掲載。

(2) 道視研 web の内容



道視研のコンセプト▶
「学びの楽しさを感じられる場にしたい」と考え略称を Study Park for VIE in Hokkaido、愛称「スタパ」とした。続けて、保存しているコンテンツを紹介している。

◀ホーム画面
画像にあるような、10 の領域に分け、コンテンツを保存している。

ようこそ！「北海道視覚障害教育研究会web」へ！
このサイトは、視覚障がい教育に携わる先生方の「学びの場」です。
子供たちが公園に行つて、様々な遊具に触れて楽しむように、先生方がこのサイトに立ち寄り、視覚障がい教育の多様な専門性に触れ、学びの楽しさを感じられる場にしたい！と考えています。
そこで、略称を「Study Park for VIE in Hokkaido」としました。親しみを込め「スタパ」と呼んでください。※ Visual Impairment Education（視覚障がい教育）の略。
視覚障がい教育の経験が長い人も、短い人も、若い人も、ベテランの人も、学びたいときに、このサイトを聞いてみてください！
そして、より良い「学びの場」を共に作っていきましょう！

令和5年度 「研修・資料」掲載情報 ※次の映像・資料が本サイトに掲載されています。
■「クラウドから協働・共同できる－TEAM WORKを生み出す－」盲学校合同ICT研修会 講師：旭川盲学校 久守勝武 令和5年7月31日（月）
■【資料】平成30年度 北海道立特別支援センター自主的コース「特別支援学校専門コース」「【議題3】触覚指導の実際」北海道立特別支援教育センター所長 小原直樹 平成30年12月25日（火）
■「視覚障害者の眼疾と視覚管理」初任者及び新転任者研修 講師：道立総合相談所 高泉康平 令和5年7月1日



コンテンツの例▶

動画共有サイトで作成した動画をアップロードし、あわせて資料を掲載している。



7 考察

- (1) 全日盲研で行われる研究協議や助言の数々が、視覚障害教育の本質を伝えていることは論を俟たない。令和5年度全日盲研北海道大会において1594名の方が配信を視聴され、ハイブリッド開催はアンケートの結果大変好評だった。さらに、全日盲研HPにアーカイブ機能を設け盲学校に解放することで、全ての教員が動画を視聴できることから、実現が望まれる。
- (2) web上で、他校の教員を交え日常的に情報交換することの意義を、「R4道視研教科等サークルアンケート」の回答例から感じていただけたのではないかな。クラウドベースのアプリを活用すると、ローカル及び全国のプラットフォームを作ることは比較的容易である。
- (3) 視覚障害教育の特色に、多くの児童生徒が在籍した時代からの指導実践の記録が、本会誌「視覚障害教育」をはじめ豊富に残されていることが挙げられる。これらを活用した、日本語生成AIによる強力な教員支援ツールの構築を期待する。
- (4) 日本では、1363年に初めて盲人の地位を象徴する「検校」が文献に記された。この史実から、我が国では古くから盲人に地位が与えられ、自立する道があったことが分かる。私たちは歴史を学ぶことで、障害者権利委員会の勧告に対峙する視座を得られると考える。

参考資料等

- 1) 国際連合 障害者の権利に関する委員会 2022年10月7日 『日本の第1回政府報告に関する総括所見』(外務省仮訳) 14ページ
- 2) 中央教育審議会 2023年3月8日 『次期教育振興基本計画について(答申)』 目標7 多様な教育ニーズへの対応と社会的包摂 55ページ
- 3) 全日本盲学校教育研究会 青木隆一 2023年3月 『視覚障害教育第134号』巻頭言
- 4) 奈良県立盲学校 小森正代 2020年3月 「奈良県立盲学校における専門性の維持と継承～校内研修の取組と実践より～」 『視覚障害教育128号』 56ページ
- 5) 北海道視覚障害教育研究会事務局 2023年3月 『R4道視研教科等サークルアンケート』 結果 回答数 80件
- 6) 「北海道札幌視覚支援学校ホームページ 公開資料一覧」において、「視覚認知トレーニング教材」及び「図形認知実態把握」を公開。
- 7) 北海道内の盲学校で平成19年度に作成し平成22年度に改定された指導者用テキスト。